

## 総合科目

### 総合学A(メディア技術史特論)

## General Studies A (The History of Media Technology)

担当: 飯田豊・門林岳史・立石祥子・金山智子・赤松正行・松井茂

単位: 2単位 履修対象: 1年 教室: ホールA(センタービル4F)

学期: 後期(10月/11月)

### 科目のねらい・特色

20世紀の現代芸術とメディア技術の進展は、新たな価値観を日常生活に浸透させ、学術分野を再編してきました。この授業は、メディア技術に関する歴史的な視点を得ること、メディア論と表象文化論の接点を理解することを目的としています。メディア表現学における制作と研究の基盤となる、歴史意識、分析理論、実践を総合的に考えます。

### 到達目標

2年次の作品制作、論文執筆の準備として、自身の研究のコンテキストを明らかにすることが目標です。基本的には1年次の履修を想定。

### 講義形態

講義、ディスカッション、レポート

### 講義計画・項目

10月3日(月)3、4限

・飯田:メディア技術史の視座

10月17日(月)3、4限

・飯田:「テレビジョン」の技術史

10月24日(月)3、4限

・飯田:オルタナティヴ・メディア技術史

11月4日(金)3、4限

・赤松:オルタナティヴ・メディア技術論

11月8日(火)3、4限

・門林:現代美術におけるポストメディア状況

11月18日(金)3、4限

・金山:ケア・コミュニケーションとメディア

11月21日(月)3、4限

・立石:受け手研究としてのメディア・イベント

11月28日(月)3、4限

・立石:送り手研究としてのメディア・イベント

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	レポート
日常点	70%	授業への参加度

# 総合学B(表象文化学特論)

## General Studies B (Representation x Culture)

担当: 小林昌廣・田川とも子(非常勤)

単位: 2単位 履修対象: 1年 / 2年

学期: 夏季集中(7月) 実施方法: オンライン

### 科目のねらい・特色

メディア表現(ここで云うメディア表現は、アートやデザインなどの表現活動に限局されず、より広大かつ精密な社会行為や精神現象を含めます。また同時にそれらの表現に対する批評や評論などの行為もまたメディア表現の範疇に含めます)に関わる現実的かつ現代的問題を読解するために、さまざまな時代と人物、作品を事例にあげ、表現者ないし研究者としていかなる思考＝志向＝試行が可能かつ必要となるかについて自覚的に考える契機を討究します。いわばこの世界をいかに解釈するかということにポイントを置いた内容をめざします。独自の世界解釈によって、世界へと投げ出された自身を回収するための知的技術を学ぶ、と言い換えることもできるかもしれません。その意味で、本講義は表象文化論(Representairon and Culture)の様相を呈した講義に近似したものになるでしょう。

### 到達目標

自身の専門領域の文献を読んだり作品を分析するのはもちろんのことですが、ここではむしろ専門領域から遠く隔たった分野の知性にアプローチして、そこから自身の研究へと牽引し、自身の仕事を客観化・相対化できるような手法を獲得することがむしろ重要です。

本講義を通して「知らないことを知る」ばかりでなく「知っていたことが知らないことだった」と自覚することができればいいと考えています。「知らないこと」よりも「知っている(知っていたはずのこと)」のほうに懐疑的になる感覚を身につけて下さい。

### 講義形態

講義(座学)

### 講義計画・項目

- 第1回 身体論とは何か、とは何か？
- 第2回 日本人の身体～能楽の身体
- 第3回 日本人の身体～舞の身体
- 第4回 文身論1
- 第5回 文身論2
- 第6回 立棺論～土方巽と暗黒舞踏
- 第7回 穿頭術～文化人類学的身体論
- 第8回 身体変工論
- 第9回 身体論における同一性
- 第10回 暦と書の歴史
- 第11回 コスプレとアバター

第12回 医学哲学入門

第13回 病いの詩学

第14回 死学thanatologyを超えて

第15回 身体表象としての肩こり

(内容はきわめて可變的です)

教科書・参考書等

必要に応じて講義中に紹介します。

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	課題レポート
日常点	70%	出席並びに受講態度

# 総合学C(文化資源学特論) General Studies C (Cultural Resources)

担当: 松井茂・伊村靖子(非常勤)・渡部葉子(非常勤)・佐藤知久(非常勤)

単位: 2単位 履修対象: 2年 教室: 講義室W(W301)他

学期: 前期(4月/5月/6月) 実施方法: 対面、5/2、5/6はオンライン

## 科目のねらい・特色

芸術においてメディアを選び、使って表現することは、作り手の思想や態度を示すと言えるでしょう。現代では表現の手段とそれを伝える場との関係は個別化・多様化しつつも密接に関わっており、それらを支えるメディア技術はグローバル資本主義下の監視や検閲、規格化・均質化と無縁ではありません。選択的にメディアを用いて社会との接点を切り結ぶ芸術表現のありようは、人類学的な観点からも注目されます。研究や展示におけるアーカイブ資料の活用事例のほか、作家による二次創作、展示計画などを通じて、メディア表現研究のコンテキスト＝歴史観を構築する手がかりとし、修士研究の基盤となる思考を身につけて欲しいと考えています。

## 到達目標

各年代におけるメディア技術の位置づけと機能の変遷、メディア環境における使用感や思想性を背景にした「同時性」、芸術における「公共圏とは何か」を考えます。歴史的な経緯を学ぶだけでなく、学生自身が直面する現在のメディア表現を批判的に捉え、自覚し、俯瞰することが求められます。

## 講義形態

講義、ディスカッション

## 講義計画・項目

第1回 4/13(水)5限 ガイダンス(松井)

第2回 4/22(金)3限 "リサーチする"—現代世界に入りこむ方法としてのフィールドワーク(2.1)(佐藤)

第3回 4/22(金)4限 "伝達のしかたをつくりなおす"—メディアロジーとコミュニティ・アーカイブ(佐藤)

第4回 4/28(木)4限 つくる人、すむ人、みる人でつくるコミュニティ・アーカイブ<坂倉準三建築編>(伊村)

第5回 4/28(木)5限 アーカイブの活用と二次創作—養老天命反転AR(伊村)

第6回 5/2(月)1限 ユーザー・マインドの建築アーカイブ: 日常の建築を実感することとアーカイブ(渡部) \* オンライン

第7回 5/2(月)2限 残すことと残ること／メディアとドキュメンテーション (ビデオインフォメーションセンター(VIC)の身振り)+ドキュメントと作品(安齊重男の仕事)(渡部)

第8回 5/6(金)1限 ディスカッション(佐藤、渡部、伊村、松井) \* オンライン

第9回 5/6(金)2限 学生によるプレゼンテーション \* オンライン

第10回 5/13(金)4限 創造の生態学—文化的共通資本とn次創作(佐藤)

第11回 5/13(金)5限 創造のためのアーカイブ—アーティストによる記録(佐藤)

第12回 5/31(火)3限 オブジェクト・ベースト・ラーニング①(渡部)

第13回 5/31(火)4限 オブジェクト・ベースト・ラーニング②(渡部)

第14回 6/3(金)4限 メディアアートのアーカイブ(伊村)

第15回 6/3(金)5限 ディスカッション(松井)

## 評価方法

種別	割合	備考
課題	20%	課題レポート、プレゼンテーション等
日常点	80%	授業への積極的な取り組み